

1 背景とねらい

フキノメイガはホップの主蔓・分枝を加害して着花数を減少させる重要な害虫である。本害虫の発生には、気象条件が強く関与することから、県内のホップ主要産地における地域別発生活長、防除対策を明らかにしたので、指導上の参考に共する。

2 技術内容

- (1) フキノメイガは枯蔓内で幼虫越冬し、翌年5月～7月にかけて蛹化し、6月上中旬から7月中下旬にかけて越冬世代成虫が羽化し、産卵する。卵は10～7日でふ化し加害を始める。発生回数は県南部で年2回、県中北部で年1回の発生が主である。(図1)。
- (2) 越冬幼虫は、4月～6月の気温が高いほど発生時期が早まる傾向にあるが、この時期の降水量が少ないと、発生期間が長びき、発生盛期が遅れる(図2)。卵は産卵後、日平均気温で、9.1℃以上有効積算温度98.8度でふ化する。
- (3) 県内の主なホップ産地における平年の発生時期は表1のとおりである。
- (4) 防除対策としては、越冬源となるホップ枯蔓を、成虫発生前(3～4月)に焼却処分し、密度低下に努める耕種的方法の他、産卵盛期とふ化盛期をねらってバダン水溶剤1000倍を散布する。平年の防除適期は、県中北部で7月第2～3半旬と7月第4～5半旬、県南部では、6月第6半旬～7月第1半旬と7月第2～第3半旬である。

表1 ホップフキノメイガの地域別・平年発生活長

地 域 名	発 蛾 (羽 化)			産 卵 時 期 *			幼 虫 ふ 化 **		
	始	50%	終	始	盛期	終	始	盛期	終
県北 軽米 二戸	6月19日 6.11	7月10日 7. 2	8月 4日 7.27	7月24日 6.15	7月20日 7.12	8.14日 8. 6	7月 5日 6.27	7月27日 7.20	8月22日 8.13
県中 玉山 遠野	6.13 6.17	7. 1 7. 6	7.27 7.31	6.18 6.22	7.11 7.16	8. 6 8.10	6.28 7. 2	7.19 7.24	8.13 8.17
県南 北上 江刺	6. 6 6. 6	6.25 6.25	7.22 7.21	6.11 6.11	7. 5 7. 5	8. 1 7.31	6.21 6.21	7.13 7.13	8. 7 8. 6

* 始：羽化始+5日、盛期：羽化50%+10日、終：羽化終+10日

** 有効積算温度に基づき算出

3 指導上の留意事項

- (1) 防除適期は、年次、気象経過により変動するので発生予察情報に注意する。
- (2) 多発圃場では、2回目散布7～10日後に追加防除を実施する。
- (3) バダン剤は蚕に対して毒性が強いので、桑園の近くでは飛散させないように注意する。

4 参考文献・資料……省略

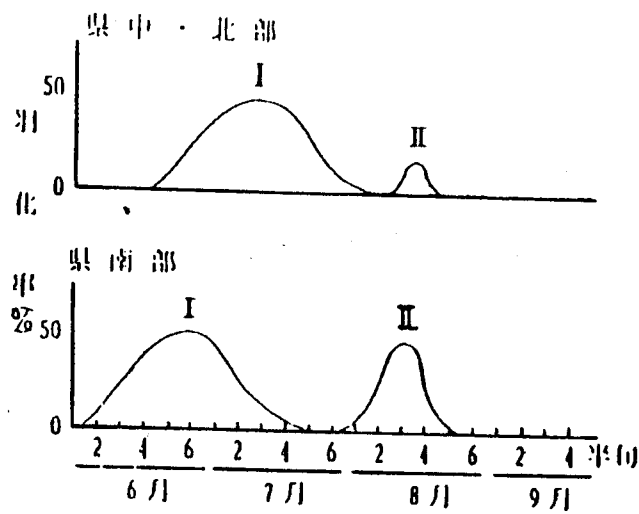


図1 フキノメイガの平均発生時期

注) I: 越冬世代成虫 II: 第一世代成虫

5 試験成績の概要

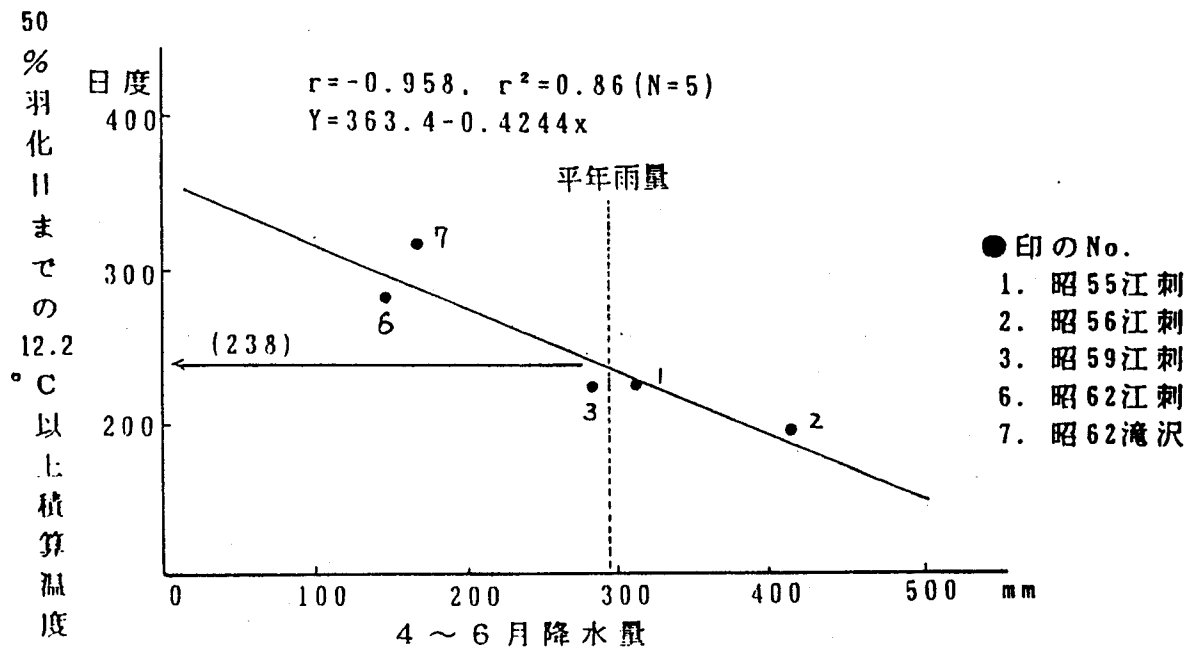


図2 フキノメイガの羽化時期と春期の降水量

表2 フキノメイガ防除試験結果 (昭60・江刺)

区名 No.	薬剤防除時期			被害状況・(8月5日)		
	6.21	7.2	7.11	茎葉被害部位数	穂花被害数	計
1. 無防除				9	2	11
2. バダン1回		○		3	0	3
3. バダン2回		○	○	0	0	0
4. バダン3回	○	○	○	0	0	0

* 1区2株茎葉被害は2莖、穂花は100花当り被害数、7月2日羽化盛期、7月11日ふ化盛期。